

くりのみ広場

くりのみ広場 令和5年夏秋号 (No.63)

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

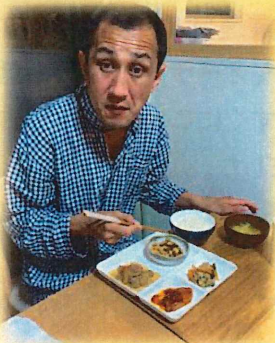
発行責任者：大崎年史

★夏秋号のキラキラさん

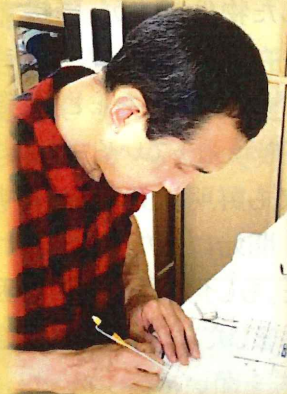
毎号 元気に輝く利用者をキラキラさんとして紹介します！
夏秋号は セブン&チェリー作業所のキラキラさん です。



本日の夕食です



10月に入居した新しい
グループホームで記念撮影📷



作業所の様子！
真剣です！！



index

事業部長より	事業部長のちょっと聞いてください	P2
行事報告	職員親睦会が開かれました	P3
事業所めぐり	くりのみ園の行事・ロジェの様子です	P4~5
職員コラム	かたやまの赤いやね職員のコラムです	P6~7
寄附寄贈の紹介・ひとこと		P8

事業部長のちょっと聞いてください!

～法人が運営するグループホーム(GH)のこと～

事業部長 大嶋 基

大嶋さん、今回はまじめに事業運営のことですか?なんて言わず、ちょっと聞いてください(笑)。

そうなんです。私が最近思っていることを書いてきましたこのコーナーですが、今回はグループホーム(以下 GH)のことを書かせてください。

当法人は4軒の一軒家でGHを運営してきましたが、広報誌春号でお知らせしたとおり、池田市鉢塚という地域にロジェはちづかというGH(7名定員)を開設しました。ロジェはフランス語で住むなどの意味があります。併せて、ロジェはちづかから徒歩圏内にひとり暮らしを目指すサテライト住居も開始しました。長年住み続けた池田市旭丘という地域から鉢塚地域での事業となりました。

さて、今日聞いてほしいのはこれまで運営していた旭丘でのひとつの物件についてです。

旭丘では2軒隣り合わせて計9名のGHを運営してきました。1件目は仲介業者を通して賃貸した物件ですが、隣接するGHはそこに住んでおられた方から使いませんかと声をかけていただいた物件です。オーナーさんは「隣にお越しになって、最初どうなるかと思っていたけど、入居されている方もきちんと挨拶してくれるし、頑張っているし、仕事(活動)に行かれているし、スタッフもとても頑張っている。同じような事業で使っていただけたらと思っている」とおっしゃってくれたのを今でも鮮明に覚えています。法人として早速賃貸契約を結び事業を開始しました。

開始にあたってオーナー自ら近隣住居を訪問し、「四幸舎和会にGHとしてお貸しすることにしました。もし何かトラブルや困ったことがあったら連絡をください」とご自身の連絡先をお知らせくださいました。また、事業開始後、オーナーは年2回私と直接会って事業運営や近隣地域の状況の報告を聞いてくださいました。いろんな課題に悩むこともありましたが、オーナーはいつも話の最後に「何かのお役に立てているならばうれしい。お互い何かあったらすぐにこのように会って話をしましょう」と笑っておっしゃっていただいたことに毎回助けられてきました。

事業開始から12年。建物の老朽化など種々の理由で退去することになりました。今は亡きオーナーへ・・・

「オーナーのおかげで地域の方の反対はないどころか、地域の皆さんとの関係もすぐに構築できました。なにより、障がいのある方が地域のなかでキラキラと生活できたことに感謝します。本当にありがとうございました」

改めて、障がい福祉を進めるのは支援者といわれる者だけではなく、本当に理解ある地域の方々が出てこそだと退去にあたり感じた次第です。誤解を恐れずに言えば、支援者として障がいのある方の日々を支援することは本当に大切なことだと思いますが、そのことを毎日やることだけで、障がいのある方が社会の中で私たちと同じように人生を送っていくことは可能なのでしょうか?

皆さんどう思われますか?



おおぞらのもとで



9月2日(土)、かたやまの赤いやねで法人の親睦会が行われました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、なかなか開催する機会がありませんでした。その間にもセブン&チェリー作業所との合併があり、事業所「かたやまの赤いやね」のオープンがあり、新しい職員が何名も入ってくるなど大きな変化がたくさんありました。室内ではなく外にテントを張りキッチンカーを呼んで3年ぶりに開かれる運びとなりました。当日は50名程度が参加し、普段は別々の場所で働き初めて顔を合わせる職員も多いことから、とてもにぎやかな親睦会となりました。職員同士の交流が今後のより良い支援につなげられるように感じました。



キッチンカーは阪急水無瀬駅前にある店舗「鮮酔丸」さん。

「自家製のみりん干しが美味しかった」など参加した方からは大好評でした。



以下、感想を一部掲載します。

暖かい職場で働いていることを実感しました!心の底から楽しかったです!

料理も出来立てでとてもおいしかったです。少しではありましたが、他事業所の方々ともお話ができ、楽しい時間となりました。

あっという間の2時間でした。今後もこのような機会があれば参加したいです!!

当日は、雨も降らず思ったよりも多くの方が参加されていて驚きました。普段なかなか話す機会がない方といろいろとお話しすることが出来て楽しかったです。

☆ 事業所めぐり ☆

☆ くりのみ園

原林神社の
おまつりに参加しました



わたがしほお張り中
モグモグ



何年か振りの
夏祭り参加でした

くりのみ園の
出店はわたがしです。
あっという間に
完売しました!



くりのみ園で救急救命講習が7月
と9月に行われました。
心肺蘇生法やAEDの使い方を再
確認しました。



訓練の説明中



みんな真剣です

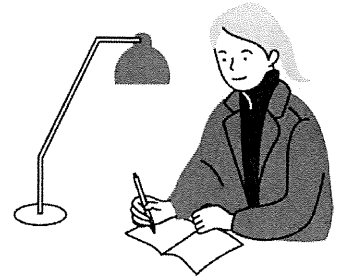
豊中消防署能勢分署よりAED
訓練用トルソー（簡易模擬
人体）を借りて訓練が行われ
ました。

ロジェ

6月にオープンしました!

ロジェはちづかの内部です





学びの大切さと育成

かたやまの赤いやね サービス管理責任者 黒川 直樹

久しぶりに職員コラムを書くことになり、さて、何をテーマにしようかなと思ったときに最近の自分のテーマである「学び」について書いてみようと思いました。

さて、学びが大切なんだという事についてはほぼ全員が「そりゃそうでしょ」と思われるかと思います。そこに育成という言葉を加えてタイトルにしたのには、当法人が受けているコンサルテーションと、自分で受けている研修から私を感じたことあったからなんです。

当法人は川崎医療福祉大学の先生からコンサルテーションを受けております。専門的な視点をはじめいろいろなことを学んでいるのですが、昨年からは支援ができる人材を育成できる人材がテーマとなっています。これはとても大事なテーマで私たち自身が、次を担う支援者を育てられるようにならないといけない、と言うもので、「育成」について学んでいます。各事業所の管理監督職がコンサルの対象なのですが、一人一人に必要な内容となっており、それぞれ学んでいる内容が少し違います。私は自分が思うこんな事業所にしたい、と言う内容に沿って、現在の事業所はどうなのかなど先生にフィードバックをいただきながら進めています。特に学びになっているところは、意外と自分は他者をほめていない、職員を導く立場としてもっと具体的にアドバイスをする、の2点です。このように、自分では気づけないところに客観的な視点からフィードバックをいただけるので、コンサルの時間はとても充実したものとなっています。

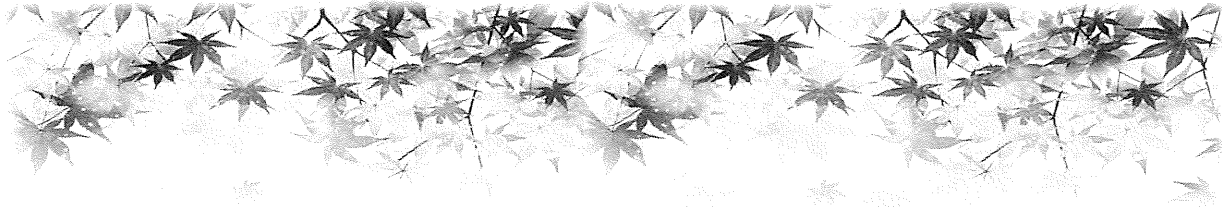
もう一つ自分で受けている研修でTEACCH7と言う研修があります。この研修はTEACCH上級コンサルタントの方から自閉症の支援について7日間の講義を受けるというものです。1回当たり6時間×7日なのでかなり掘り下げて丁寧に支援について学ぶことができます。内容を書くとても長くなりますので省きますが、他の職員にもぜひ受けてもらいたい内容でした。

上記二つの学びから、私が気づいた事です……

私の職責の中に職員の育成があります。主任と言う立場になってからずっと考え続け色々自分が思うなりに取り組んでいましたが、なかなかうまく出来ているとは感じていませんでした。でも、昨年からの職員育成についてコンサルを受け、自分が出来ていなかったところ、出来ていたところを意識することが出来、自分の行動が変わってきているのを感じます。そして、TEACCH7の研修から専門的な内容の再確認と伝え方のバリエーションが増えるなどの効果がありました。今年度は職員の育成をするにあたり、コンサルからの学びとTEACCH7から

専門性の学びがしっかりとつながり、良い育成に向けてなんとかやっていけるかと思えるようになりました。他者の育成をするには、学び続けることが必要で、学んで考えて実践して、日々繰り返していくことに気づくことが出来ました。

さて、長々と書き連ねましたが、今私が感じているワクワク感を伝えるには紙面が足りません。支援もそうですが、育成についてもきちんと学んで行うことで楽しく取り組めることが出来るなあと言うのを今回のコラム締め言葉とさせていただきます。



スタッフより一言

かたやまの赤いやねに黒川さんがサービス管理責任者として異動してこられ、私自身も初めて黒川さんの直属上司となりました。とてもよく知っている黒川さんですが、なにか新鮮な気持ちで仕事をし始めたことを思い出します。

これはあまり言っちゃいけないのかなと思いつつ・・・

黒川さんが着任されて、事業所のことを話していると、支援のスキルは自信がないといつもおっしゃっていたのをとても覚えています。私自身はこれまでの黒川さんを見るなかで、利用者の特徴をつかむ感性がいいなと思っていました。それをお伝えしても黒川さん自身はあまり自信を持ってないようでした。

ただ、ここからが黒川さんのいいところで、コラムにあるようにご自身が課題と思っているところを自ら学び、そして育成のコンサルも主体的に取り組んでられています。

誤解を招いてはいけないのですが、着任時と今とは別人のようです・・・これは本人にも伝えていきます(笑)

私が気づくところもよくアドバイスするのですが、しっかり自分の中に落とし込もうとされますし「どう思いますか」と問いかけてくださいます。日常にお互いに「あーでもないこーでもない」と言いながら事業所運営を進められていることに私も感謝しますし、私自身ももっといいアドバイスができるように学びたいと思わせてくれます。

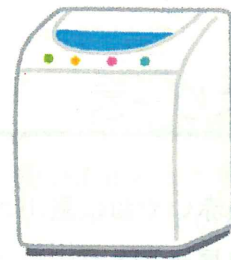
さて、当法人の各自事業所の中核スタッフが育成コンサルを受けています。このスタッフがさらに法人内のスタッフを育成することで、法人のスタッフの厚みが増し、さらに魅力的な法人になっていくことを願っています。

かたやまの赤いやね 管理者 大嶋 基

寄附・寄贈のご紹介

奥井医院 様	洗濯機 1台
三浦 嘉彦 様	お米 30kg
多田 奈緒美 様	100,000 円
西中 圭子 様	10,000 円
有限会社 野口商事(アムパチーノ) 様	200,000 円

令和5年9月末現在



※ アムパチーノ豊中店様に理事長が感謝状を贈呈しました。

編集後記

みなさん。学の旧字をご存じですか？ 旧字は『學』になります。

私も数年前まで知りませんでした。子どもの学校だよりも学の旧字について説明があり、とても温かみがある字だと感じて印象に残っていたので、ご紹介したいと思います。

學の成り立ちは上の部分の左右にあるのは臼で両手、真ん中の爻は交わるという意味です。下の部分は下が子どもで、それを囲んでいるのが建物という意味です。つまり、学び舎の中で先生と生徒が議論をして(交わって)共に学んでいるということですが、先生を手で表現する温かさ・安心感がすごく素敵だなと思いました。

私たちスタッフも利用者も日々学び成長をしています。利用者にもスタッフにも學のような両手で包まれているような『安心感のある学び』の保証が大切だなと思います。

おおざとの赤いやね サービス管理責任者 豊川 郁子